



孝優劣章第十二

孝道小優劣

子曰不愛其親而愛他人者謂之悖德不敬其親而敬

他人者謂之悖禮以訓則昏民亡則焉

親は孝電為りて化人を電するは悖徳也

あつたれ命り又い欲心に... 所謂悖徳悖禮といふもの悖徳悖禮は... 悖徳悖禮の... 孝電敬禮の... 天下礼を... 系筋の... 悖は... 親子互に... 不宅於善而

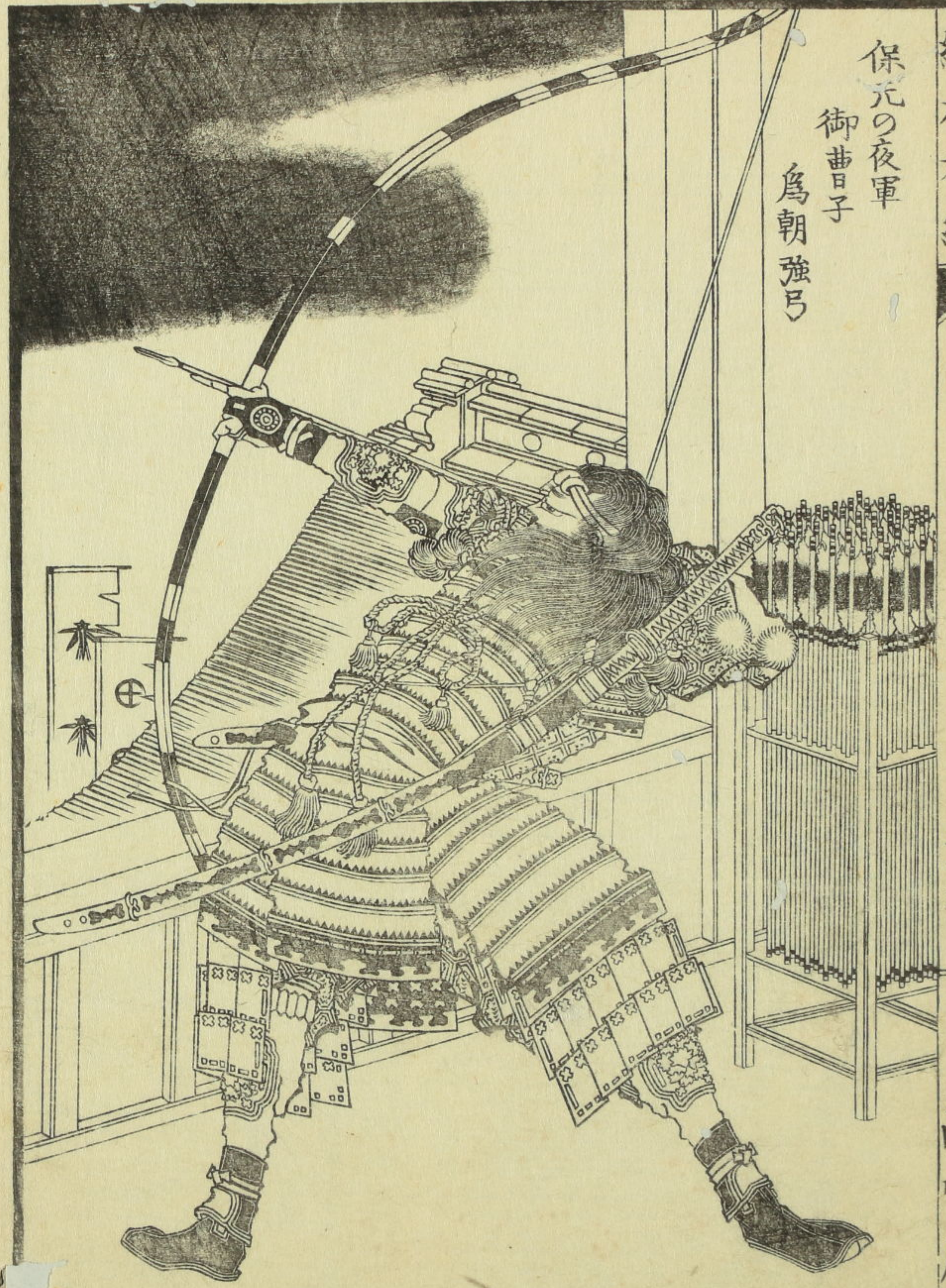
皆在於凶德雖得志君子弗從也君子則不然言思可



楚王  
九里山に云

頂羽  
自殺

呂馬童



保元之夜軍  
御曹子  
烏朝強弓



平相國清盛  
繁榮



白拍子

北条高時  
驕奢

田樂  
法師







宇佐八幡は神託を  
 傳ふる原罪科ありて  
 道鏡がたを五體の節をり  
 大隅の山へ流せり

和氣は  
 清磨



行者の係より西に雲停をかじ  
 鯉松嶺小袖を刺す

行者武松





伯夷 叔齊

首陽山中



兄弟相俱小  
遁讓一鳥を  
射摸す



呼兵具と指さる者ハ盜賊と名付クバ刀劍と賣て農具を求め牛を買  
風俗農業の事ハ小のこ移りける風を移し俗を化せるハかるたけし  
治民莫善於禮

臣悦 一人として敬者せば一人となほよしくはしむるありべし  
故敬其父則子悦敬其兄則弟悦敬其君則  
千萬人悦所敬者寡而悦者衆此之謂要道也

禮者敬而已矣 敬一人而  
上老を老  
とて天下

廣至德章第十六 君子の至徳を  
廣め徳を章也

子曰君子之教以孝也非家至而日見之也教以孝所  
以敬天下之爲人父者也教以弟所以敬天下之爲人  
兄者也教以臣所以敬天下之爲人君者也

詩云愷悌君子民之父母 君子の孝悌を  
易しと云

繪本孝經 三十一 萬山房

孝成かこし上長を長として天下將をかこは是一人を  
敬して千万人よろこぶ所なり要道化かくのごとく

君子の至徳を廣め徳を章也

子曰君子の教以孝也非家至而日見之也教以孝所  
以敬天下之爲人父者也

教以弟所以敬天下之爲人兄者也

教以臣所以敬天下之爲人君者也

君子の孝悌を易しと云

君子の道徳を樂で親小服を易しと云

繪本孝經 三十一 萬山房

漢の張良  
小野の篁孝心厚く  
自薪水は労を尽し  
父母を愛敬す

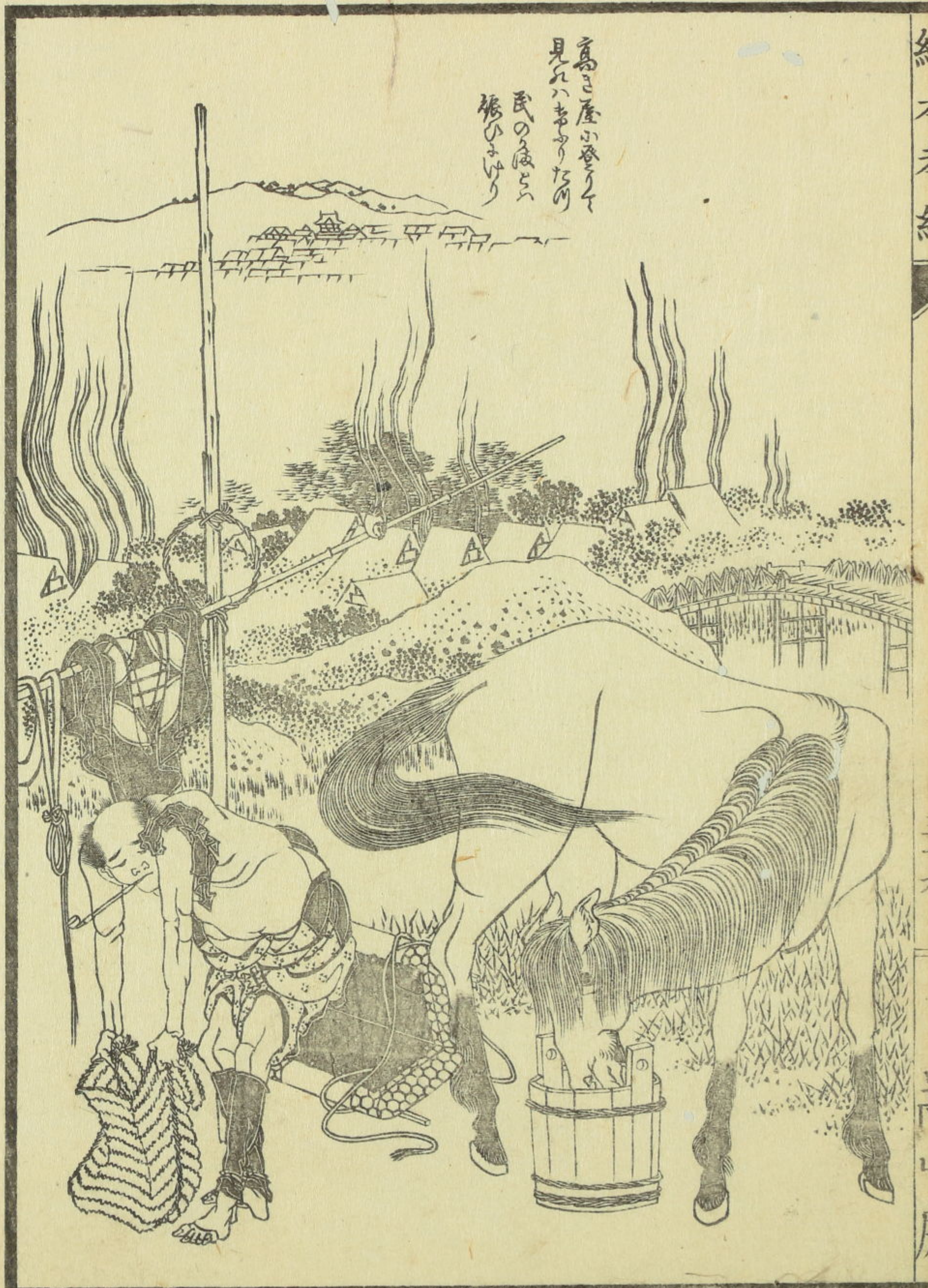






神功  
皇后  
三韓  
退治

凶奴屈伏して  
群衆す

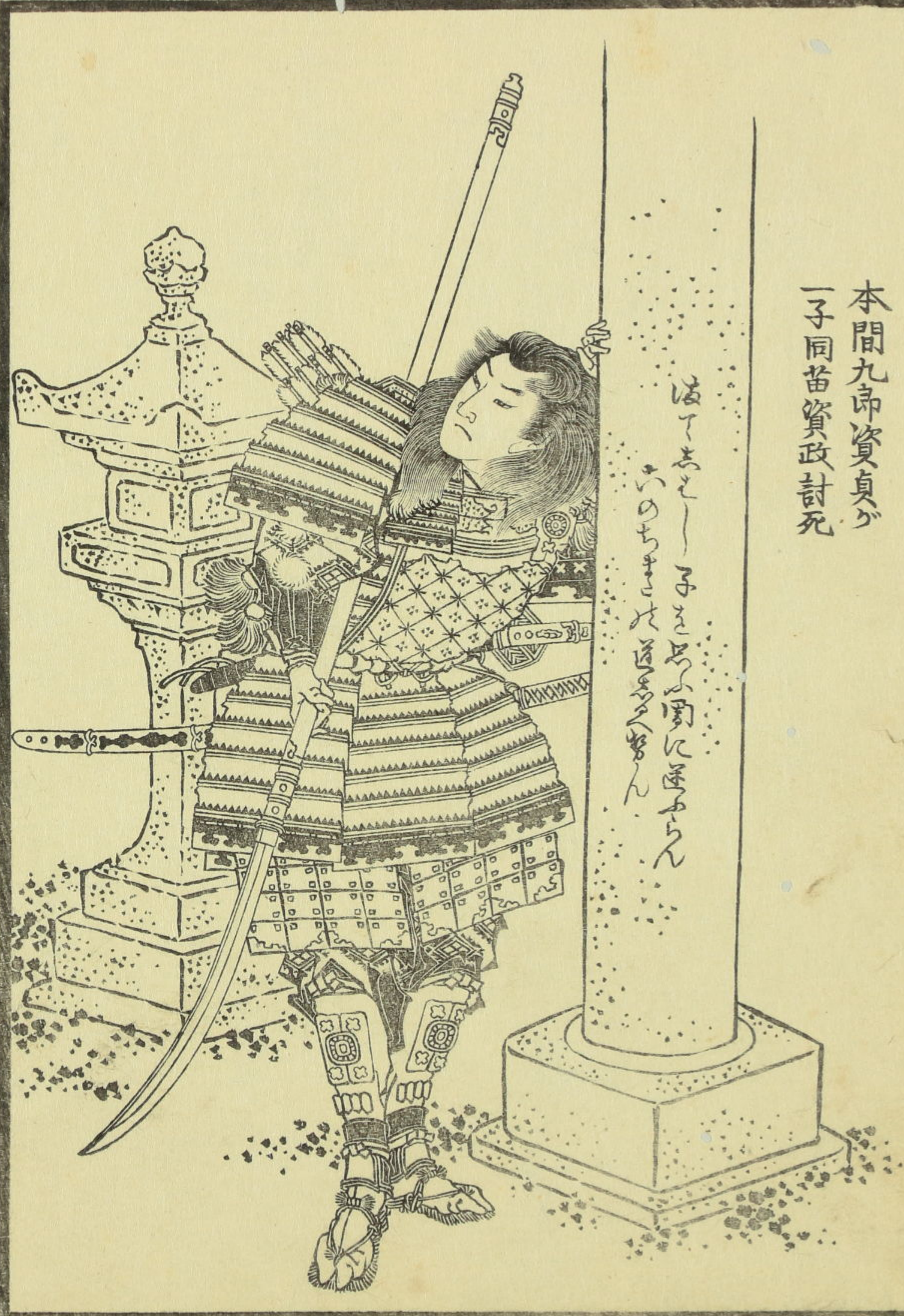


高き屋の登りて  
見ればあやうなる  
民のあはれ  
張ひさけり



本間九郎資貞が  
一子同苗資政討死

本間九郎資貞が  
一子同苗資政討死



伍子胥

吳王をいさめて  
伍子胥両眼を  
抉出して東門か  
かひんとす









於父臣不可以不爭於君

君親不義に當て争ふべきと忠孝の二ツと  
前漢の蕭何の言に於て天下を治めんとす

治ぬ沛公威陽宮ふりて時々の法を以て  
書物庫に入るは法の法令山川分世の法圖を  
そは臣の君に侍る者蕭何  
と云く手本とせしむ  
故當不誼則争之從父之令焉得為

孝乎

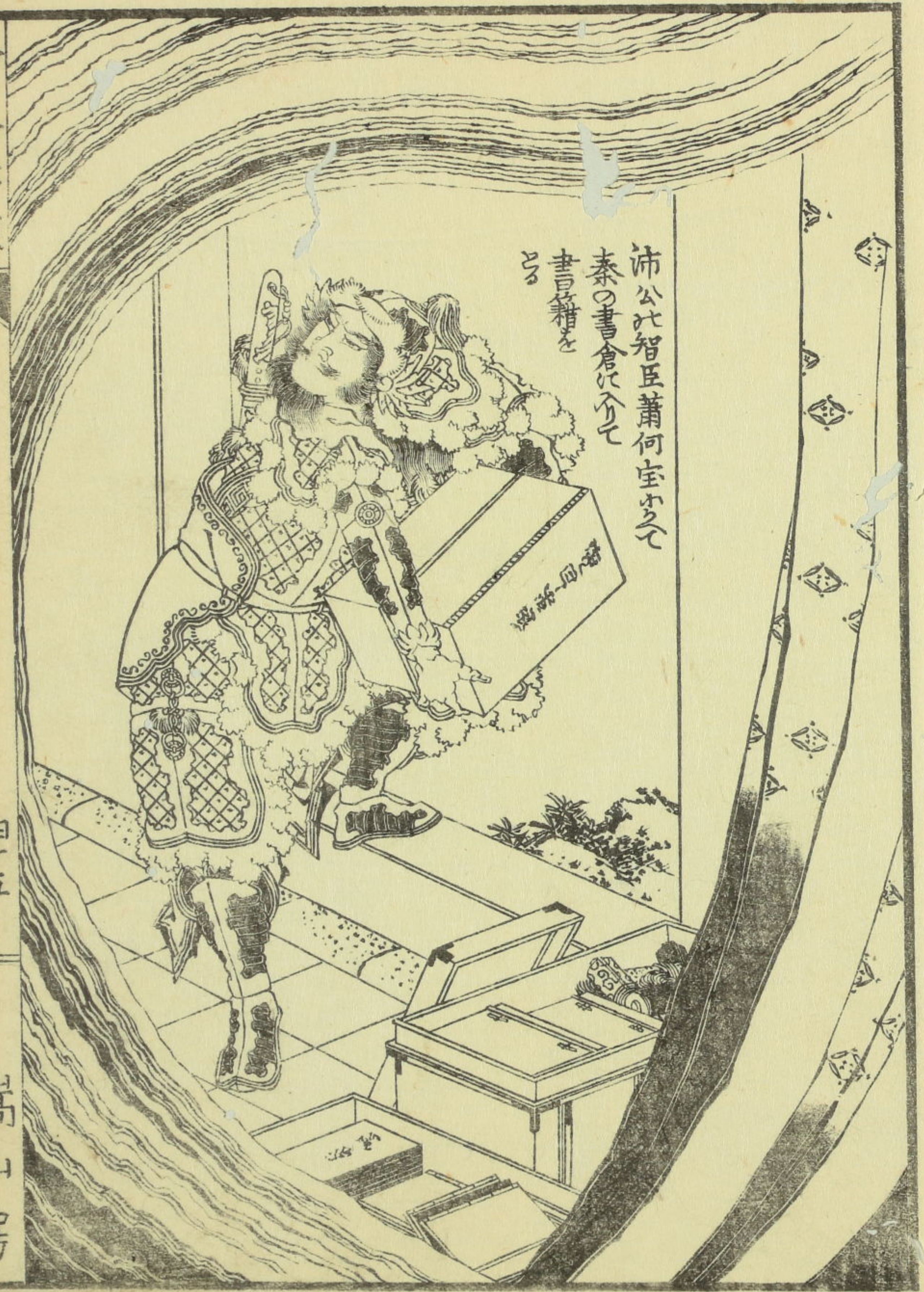
君父不義に當る時は争ふべしとありて  
孝と云く手本とせしむ  
忠臣孝子の君に事  
まつるは述くる章之

事君章第二十一

子曰君子之事上也

君子と云く孝子忠臣と云く漢の武帝の時蕭何  
と云く手本とせしむ  
孝子と云く忠臣と云く漢の武帝の時蕭何  
と云く手本とせしむ

日あり天雷と云く蕭何と云く毛稱と云く  
必ふと云く手本とせしむ  
必ふと云く手本とせしむ



沛公才智臣蕭何室を以て  
秦の書倉に於て  
書籍を  
と

事るまじと  
かくのごと

### 進思盡忠退思補過

忠を盡すは忠と云ふ君の前に進むは  
君と賢者と改むに改あるんことを思ふ  
退は防門の清忠をそとに成むるを思ふ  
補過は先古の良徳といふ處あり

忠を盡すは忠と云ふ君の前に進むは  
君と賢者と改むに改あるんことを思ふ  
退は防門の清忠をそとに成むるを思ふ  
補過は先古の良徳といふ處あり

### 將順其美匡救其惡故上下

### 能相親也

忠臣の君に侍るは親と事るるに家  
に居ては孝と悌と國に出ては忠と  
稱せざる君若の兆あれこれと勤めて遂  
に君若の美を匡救するは君若の美を  
匡救するは君若の美を匡救するは君若の美を

詩云心乎愛矣

### 遐不謂矣忠心臧之何日忘之

亦かほ古之方儀なるは忠臣を匡  
救するは君若の美を匡救するは君若の美を  
匡救するは君若の美を匡救するは君若の美を

### 喪親章第二十二

親の喪に居る  
親と述るる事

### 子曰孝子之喪親也哭不依禮亡容言不文服美不安

父母没すは愛に依りて居るを喪といふ哭依禮と云ふ哭は禮を依りて哭すこと也  
亡容言不文服美不安  
孝子之喪親也哭不依禮亡容言不文服美不安

### 聞樂不樂食旨不甘此哀戚之情也

聞樂不樂食旨不甘此哀戚之情也  
三日而食



坊門の宰相清忠

楠河内の判官正成

四十一

四十二

高川房



蕪武雪を  
嗚んて凶奴小  
降り後白髪に及んて  
依りて帰して漢小使

高川房

四十三

高川房





平の貞後は妻女  
夫に別れを告ぐ  
目害する





